

令和元年度第2回西部地域医療構想調整会議 委員意見概要

開催日：令和元年10月7日

注) 今回は西部地域医療協議会でも協議すべき共通議題があったため、第2回西部地域医療協議会との合同開催となった。そのため、両会議に共通する議題、報告等は「共通議題」、調整会議単独の議題は「調整会議 議題」と表記している。

当日意見

共通議題1：天竜病院における結核病床の現状と将来構想について

- ・ 天竜病院は結核病床20床のうち12床を減少し、同時に一般病床だった10床を結核モデル病床にすることを計画している。この計画について地域の意見を確認し、同じく結核患者を受け入れている聖隷三方原病院との連携を密にすることを条件に委員の賛同を得た。

共通議題2：医師確保計画の策定について（素案）

- ・ 素案の方向性については委員の了承を得たが、以下のような意見があった。
- ・ 若い医師のリクルートだけでなく、高齢医師の活躍支援もぜひ考えてほしい。
- ・ 西部医療圏は医師多数区域に分類されているが、北遠だけを見ると必ずしも医師が足りているとは言えないので具体的な対策を記載してほしい。
- ・ 北遠に関しては、歯科医師も不足しているので、無歯科医村のことも少し念頭に入れていただきたい。

共通議題3：外来医療計画について

- ・ 静岡県外来医療計画の構成案については大筋で同意を得られたが、以下のような意見があった。
- ・ 医師が都市部に偏っていてバランスが悪いということだが、診療科の偏りにも配慮してほしい。
- ・ 同じ地域に同科の診療所が2つ以上あるよりも、様々な診療科の診療所がある方が望ましい。

調整会議 議題1：西部医療圏における医療提供体制

(1) 医師の働き方改革を踏まえた今後の医療提供体制の在り方

- ・ 小児科については、特に新生児科医が不足しているので、小児科の中でも周産期を担う新生児科については分離して検討してほしい。

- ・西部保健医療圏は、全体の方向性としては地域医療構想に沿ったバランスの良い状態に向かっていると思われる。

(2) 療養病床転換意向等調査結果(概要)について

- ・療養病床を介護医療院に転換する動きが、静岡県は全国的に見てもかなり早い。そのなかでも西部医療圏は介護医療院への転換が上手くいっている。そのことが、急性期、慢性期、在宅医療のバランスを調整することにつながればよいと思う。

調整会議 議題2：公的・公立医療機関等の具体的対応方針の検証について

- ・市立湖西病院は、厚生労働省から「具体的対応方針の再検証の要請」対象医療機関として病院名を公表されているが、これは平成29年のデータに基づくものであり、それ以降に地域医療構想に基づいて実施した病床機能の変更が反映されていない。よって、新しいデータに基づいた現状を厚生労働省に報告していく必要がある。
- ・厚生労働省は全国の地域医療構想調整会議が進んでいないので、やむにやまれず今回の病院名公表に踏み切ったのだと思う。目的はあくまでこの会議の活性化であり、名前が出た病院は潰すとか、そのような話ではないはずである。
- ・公的・公立医療機関は、赤字が出て地域医療を守っていくためにどうしても必要な場合もあるので、地域性というものをよく考慮すべきである。
- ・民間病院についても「具体的対応方針の再検証の要請」対象医療機関を公表するという話だが、公立病院のように税金で赤字を補填しているわけではないのだから、その辺りのことを考慮してほしい。
- ・地域医療構想は、それぞれの二次医療圏で会議をやって自主的に実現を目指すようにとされているが、当事者である病院長が委員になっているこの会議で自主的に何かを決めるのは難しいので、国などが強制力を行使するしかないと思う。ただし、強制力を行使する以上は、今回のように根拠のはっきりしないデータではなく、皆が納得するようなデータを示す必要があると思う。
- ・ダウンサイジングをネガティブなイメージで捉えるべきではない。公立病院で最も経営が上手くいっている病院は、900床あったのを700床まで病床を減らして、患者の在院日数を下げて回転を早くすることで成功している。

調整会議 議題3：地域医療介護総合確保基金について

※この議題については、特に委員から意見、質問等が出なかった。